

関係各位

大阪府環境農林水産部農政室長

病虫害発生予察情報について
(予報第2号(6月))

標記について、次のとおり発表します。

《6月の病虫害発生予報》

<作物>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
水稲			いもち病			
				縞葉枯病		
			ヒメビウンカ			
			ニカメイガ			
			ジャンボタニシ			
				イネミズゾウムシ		

<果樹類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
ぶどう				べと病		
				灰色かび病		
				晩腐病		
				アザミウマ類		
もも				せん孔細菌病		
				シンクイムシ類		
みかん				黒点病		
				そうか病		
				かいよう病		
				ミカンハダニ		
			アブラムシ類			
いちじく			アザミウマ類			
果樹類全般				果樹カメムシ類		

<野菜類>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
なす			すすかび病			
				灰色かび病		
				ミナミキイロアザミウマ	うどんこ病	
トマト			葉かび病・すすかび病			
				灰色かび病 コナジラミ類		
非結球 あぶらな 科葉菜類				コナガ		

<花き>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
きく				黒斑病・褐斑病		
				白さび病		
				アザミウマ類		

<その他>

品目	程度	少ない	やや少ない	平年並	やや多い	多い
野菜類・ 花き類				アブラムシ類・ウイルス病		
			ミカンキイロ アザミウマ			
			ハモグリバエ類			
				コナジラミ類		
				ハスモンヨトウ		
				シロイチモジヨトウ		
			オオタバコガ			

《今月のトピックス》

■発生が**平年よりやや多い**と予想される病害虫

【なす・もも】

病気や害虫は発生初期の防除が重要です。なすのうどんこ病の発生がやや多いと予想されます。もものせん孔細菌病は、先月に引き続き警戒が必要です。きくでは白さび病の発生がやや多いと予想されます。また、野菜類や花き類のアブラムシ類やウイルス病、オオタバコガにも注意が必要です。

■現在の発生は平年並だが、**今後の発生に注意**が必要な病害虫

【なす】

灰色かび病

(曇天・過湿が続くと発生する)

【非結球あぶらな科葉菜類】

コナガ

(ジアミド系農薬への抵抗性が確認されている)

《(参考)6月の気象予報》(大阪管区气象台 5月25日発表)

気温	低い(10%)	平年並(30%)	高い(60%)
降水量	少ない(30%)	平年並(40%)	多い(30%)
日照時間	少ない(30%)	平年並(40%)	多い(30%)

(詳細は、一覧表参照)

A 作物

1 水稲

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
いもち病	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の葉いもち及び穂いもちの発生は平年並からやや少なかった。 ・向こう1ヶ月の気温は高いと予報されている。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植後の余り苗を水田に放置しない。 ・発生が予想される場合は、田植前に箱施用剤を処理する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低温、日照不足の時に発生しやすい。 ・近年、他府県においてQoI剤耐性菌の発生が報告されている。 <p>※QoI剤成分例：アゾキシストロビン（アミスター）、メトミノストロビン（イモチエース、オリブライト）、オリサストロビン（嵐）等</p>
縞葉枯病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の巡回調査では、平年並だった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植前までに水田、畦畔の除草を行う。 ・ヒメトビウンカの防除薬剤を施用する。 ・密植を避けて通風を良好にするとともに、窒素質肥料の過用を避ける。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本病はヒメトビウンカによって媒介されるウイルス病である。 ・府内のひこばえ調査(H28.11)では、縞葉枯病罹病株が確認された。

ヒメトビウンカ	やや少ない～並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年は越冬虫の捕獲虫数が並からやや少なかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱施用剤等を処理する。 ・イネ科雑草で越冬するため、まだ耕起していない水田では早めに耕起して、密度低下を図る。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・縞葉枯病を媒介する。
ニカメイガ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のほ場での発生は平年同様ほとんど見られなかった。 ・5月の予察灯への飛来は見られなかった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・箱施用剤を処理しない場合は、7月上中旬に防除を行う。
ジャンボタニシ (スクミリンゴガイ)	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度のほ場での発生は平年並からやや多かった。 <p>[防除上考慮すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水深4cm以下の浅水管理を行う。 ・桃色の卵塊は水中へ掻き落とし、成貝は拾い取り、処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田植後2週間程度まで食害による被害が大きい。
イネミズゾウムシ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の発生は、平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・極端な早植は越冬世代成虫が集中し、被害が増大する。 ・移植後は浅水に管理し、健全な発根を促す。 ・発生が多い所では、箱施用剤等を処理する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間の水田で発生しやすい。

B 果樹

1 ぶどう

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
べと病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除くとともに、初期防除を徹底する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月～10月に降雨が続き、気温が低めに推移すると発生が多い。露地デラウェアに多い。
灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ハウス栽培では換気やマルチを行い、湿度を下げる。 ・落花直後の花かすを取り除く。
晩腐病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p>

		<ul style="list-style-type: none"> ・前年度発生があったほ場では予防散布に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新梢伸長期～収穫期に雨が多いと多発する。露地デラウェアに多い。
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大粒系品種では果実の傷や果軸の褐変が起こりやすい。

2 もも

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
せん孔細菌病	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の多発ほ場では発生が見られる。 ・巡回調査では発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる春型枝病斑、被害葉、果実を除去し、適切に処分する。 ・薬剤防除は多発してからでは効果が劣るため、早めの予防散布を心がける。降雨前後が効果的。 ・降雨前に袋かけを行い、雨滴による感染を防止する。 ・風当たりの強い園地では、防風ネット等を設置する。
シンクイムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・被害果や被害枝は、ほ場外に持ち出し処分する。

3 みかん

病害虫名	発生量	予報の根拠・注意すべき事項
黒点病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・伝染源となる枯枝は除去し、適切に除去する。
そうか病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生の多い園地では、落弁期～幼果期の防除を徹底する。
かいよう病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、平年同様に発生は確認されなかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生の多い園地では、落弁期～幼果期の防除を徹底する。
ミカンハダニ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・殺ダニ剤に対する抵抗性の発達が懸念されるため、同一系統薬剤の連用を避ける。

アブラムシ類	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、新梢での発生が見られ、葉での発生は平年同様に発生は確認されなかった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年並～やや多い発生であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
--------	--------	--

4 いちじく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アザミウマ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青色粘着トラップによる誘殺虫数は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・初期防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避ける。

5 果樹全般

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
果樹カメムシ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップによる誘殺虫数は、やや少ない～平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園地により飛来量は大きく異なる可能性があるため、園内を見回って発生及び被害状況を確認し、発生が見られる場合は速やかに薬剤防除を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近畿における果樹カメムシ類の発生は「やや高い」と予想されている（農林水産省：平成29年4月19日付け「平成29年度病害虫発生予報第1号」）

C 野菜類

1 なす

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並からやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。（QoI剤（アミスター、ストロビー、シグナム）、SDHI剤（アフェット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1作1回程度の使用にとどめる。） <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主にハウス栽培で発生する。ハウス内温度が23～28℃位で、多湿条件下で発生が多い。曇雨天が続き、換気が不十分だと発生しやすい。

灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・果実に付着した花卉からの感染が多いので花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿、日照不足で発生が多くなる。 ・QoI 剤（シグナム）、SDHI 剤（アフェット、カンタス、シグナム）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1 作 1 回程度の使用にとどめる。
うどんこ病	やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・密植を避け、過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日照不足、乾燥条件下で多発する。 ・QoI 剤（アミスター、ストロビー）、SDHI 剤（アフェット）は、薬剤耐性菌を生じやすいので、1 作 1 回程度の使用にとどめる。
ミナミキイロアザミウマ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、ハウスなすでの発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定植時には、粒剤やかん注処理により薬剤を施用する。 ・感受性が低下している薬剤が多く、発生が増えると防除が困難である。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・葉の被害に注意し、少発生時の防除を徹底する。 ・露地栽培では、天敵昆虫の温存を図るため、ソルゴー囲い込み栽培などを行う。

2 トマト

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
葉かび病・すすかび病	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培においては換気に努め、マルチを行う等、湿度を低く保つ。 ・下～中位葉に発生しやすいので、発病を認めたら早めに摘葉し、病葉はハウス外に持ち出し処分する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
灰色かび病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿条件下で発生が多くなるので施設の換気を十分行うとともに、茎葉が過繁茂にならないよう摘心・摘葉をこまめに行う。

		<ul style="list-style-type: none"> ・果実に付着した花卉からの感染が多いので、花卉の除去に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多湿、日照不足で発生が多くなる。
コナジラミ類・ トマト黄化葉巻病(TYLCV)	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設では、開口部を寒冷紗等(0.4mm目合)で被覆し、成虫の侵入を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・感染株は見つけ次第抜き取り土中に埋める等処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タバココナジラミはトマト黄化葉巻病(TYLCV)を媒介する。

3. 非結球あぶらな科葉菜類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
コナガ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フェロモントラップ、予察灯での誘殺虫数は、平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期に防除を行う。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。特にジアミド系薬剤の連用は避ける。

D 花き きく

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
黒斑病・褐斑病	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並だった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除く。
白さび病	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は並からやや多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発病を認めたら、被害葉を速やかに取り除く。
アザミウマ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・膜割れ(蕾から着色した花卉が見える前)前後の防除を徹底する。

E 野菜類・花き類

病害虫名	発生量	予報の根拠・防除上注意すべき事項
アブラムシ類・ウイルス病	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年並からやや多かった。 ・黄色水盤による誘殺虫数は平年よりやや多かった。 ・一部の植物防疫協力員から発生が多いとの報告を受けた。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施設栽培では、開口部をネットで被覆し、成虫の飛来を防止する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ウイルス病が発病した株は、まん延防止のため、抜き取りまたは株元から切り取って、ほ場外に持ち出し処分する。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アブラムシ類が媒介するウイルス病には、キュウリモザイクウイルス（CMV）などがある。
ミカンキイロアザミウマ	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、ハウスなすでの発生はやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月から発生が増えるので、少発生時の防除を徹底する。 ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、ビニール袋に入れたり、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・ほ場周辺の除草に努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ミカンキイロアザミウマやヒラズハナアザミウマは、作物を加害するだけでなく、トマト黄化えそウイルス（TSWV）を、きく、なす、トマト、ピーマンなどの作物に媒介する。
ハモグリバエ類	やや少ない	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・巡回調査では、発生は平年よりやや少なかった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。 ・施設では、開口部をネットで被覆し、成虫の侵入を阻止する。 ・しゅんぎくや大阪しろな等では、収穫後に地表面をビニール被覆し、1日間太陽熱により土中の蛹を殺すこと（晴れの日丸1日ビニール1枚敷き）で、次作の被害を軽減できる。（4～10月の間可能。但し4、10月は効果がやや低い。） ・同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ・ほ場周辺の除草にも努める。
コナジラミ類	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なす、トマトの巡回調査では、発生は平年並であった。 ・黄色粘着トラップへの誘殺虫数は、平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発生初期の防除に努める。 ・被害葉や残さは、ほ場外に持ち出し、穴を掘って埋めるなどして処分する。

		<ul style="list-style-type: none"> 施設では、開口部を 0.4mm 目合いのネットで被覆し、成虫の侵入を阻止する。 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。 ほ場周辺の除草にも努める。 <p>[メモ]</p> <ul style="list-style-type: none"> タバココナジラミはトマト黄化葉巻ウイルス (TYLCV) を媒介する。
ハスモンヨトウ ・ シロイチモジヨ トウ	並	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 発生初期 (若齢幼虫期) に防除を徹底する。卵塊や集団でいる幼虫の除去に努める。 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。
オオタバコガ	並～やや多い	<p>[予報の根拠]</p> <ul style="list-style-type: none"> フェロモントラップへの誘殺虫数は平年並であったが、花き栽培地点では多かった。 <p>[注意すべき事項]</p> <ul style="list-style-type: none"> 発生初期 (若齢幼虫期・食入前) に防除を徹底する。 同一系統薬剤の連用を避け、ローテーション散布を行う。

●大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ・ホームページ

(平成 23 年 4 月 1 日より大阪府病虫害防除所から組織名変更)

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/>

防除指針を掲載しています。



●病虫害発生情報メールサービス

申込先：大阪府環境農林水産部農政室推進課病虫害防除グループ

メールサービス担当

TEL 072-957-0520

<http://www.jppn.ne.jp/osaka/mailservice/mail servicemousikomi.html>

<情報料無料、受信に要する通信費は自己負担です>

年間約 15 件の病虫害情報を電子メールで送付します。



●おおさかアグリメール

申込先：大阪府立環境農林水産総合研究所

経営企画室 企画グループ おおさかアグリメール受付担当

TEL 072-979-7070

<http://www.kannousuiken-osaka.or.jp/nourin/agrimail/>

最新の農業情報をあなたの携帯電話にお届けします。

(受信に要する通信費は自己負担です)



●Web版大阪府園芸植物病虫害図鑑

「ひと目でわかる花と野菜の病虫害」

<http://osaka-ppa.jp/zukan/index.php>

(大阪府植物防疫協会)

